

# 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東住吉区
学 校 名	大阪市立湯里小学校
学校長名	定国 真理子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
  - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
  - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- (2) 質問紙調査
  - ・児童に対する調査
  - ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立湯里小学校では、第6学年 35名

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

A問題では、国語の平均正答率は全国平均を2.3%、算数の平均正答率は全国平均を0.4%上回っている。一方、B問題では、国語で全国平均を7.2%、算数で2.3%下回っている。平均無解答率では、算数A・Bで全国平均よりも低いが、国語B問題では、全国平均より高い。本校児童の実態として、知識に関するA問題では定着を図れているが、活用に関するB問題に課題があり、特に記述式の設問に対する無解答率が高い傾向にある。

## 分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕習熟度別少人数指導・チームティーチングなどの個に応じた指導の工夫により、漢字の読み書きや言語事項の基礎的・基本的な知識・理解についての学習内容定着に成果が見られた。しかし、長い文章を読み取ったり内容を比較して考えたりして、自分なりの考えを書くことに課題がある。

〔算数〕計算や図形領域の基礎的な技能や知識に関して、少人数や習熟度別学習・チームティーチング等の個に応じた学習や反復練習により学習内容を習得している。しかし、数量関係を捉えたり、問題解決に必要な情報を読み取ったりして数学的に考える力に課題がある。児童質問紙の数値をすべて80%以上にするため、授業を工夫する必要がある。

質問紙調査より

児童質問紙から、外国の人との関わりの項目が全国と比較して肯定的回答が高かった。本校では、英語イノベーション事業の低学年からの英語教育の実施により、C-NETの外国人講師と直接触れ合う授業を1年生から取り入れているのが効果的であることがわかる。総合的な学習の時間や家庭での計画的な勉強の項目の肯定的回答の低さは課題である。そのため、タブレット端末等のICT機器の効果的な活用や話し合い活動の場の設定など主体的・対話的で深い学びの取り入れにより、自分たちで考える学習活動を推進している。さらに、「言語力や論理的思考の育成」につなげるため、読書ノートを活用した取組を全校で進めていくなど、読書活動も推進している。

## 今後の取組

国語では、児童が興味や関心をもち意欲的に国語の学習に取り組めるような指導内容や指導方法の工夫・改善に引き続き取り組む。言語力や表現力を育成するために、自分の考えや思いを根拠をもって書いたり、説明したりする機会や場を日々の授業の中で確保していく。また、読書習慣を定着させるため、学校図書館活性化を図り、児童の読書の質・量共に高め、長文に抵抗感をなくす取り組みを進める。算数では、算数的活動を多く取り入れた授業展開や数学的な考え方を高めあえるよう児童間での話し合い活動、自分のことばで説明や記述ができる授業の工夫を図る。また、タブレット端末などICT機器を活用した授業の工夫や展開を創造したり、少人数や習熟度別学習での利点を生かした個に応じた学習の工夫改善を行ったりして、基礎学力の定着を図るとともに既習事項を活用し問題を解決していく態度を育成していく。

## 【 全体の概要 】

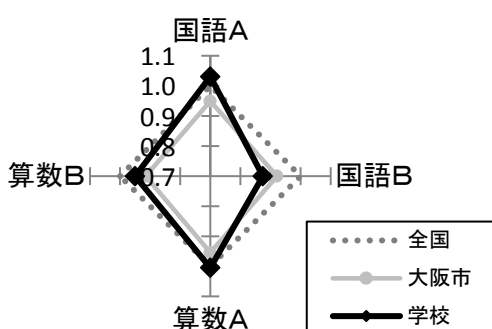
### 平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	77	50	79	44
大阪市	71	53	75	42
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

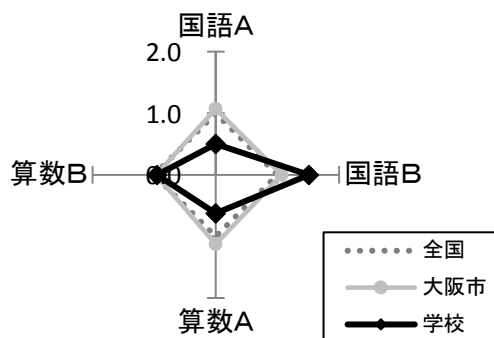
### 平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	1.4	6.5	1.0	6.1
大阪市	3.0	4.6	1.8	6.2
全国	2.8	4.3	1.6	6.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)

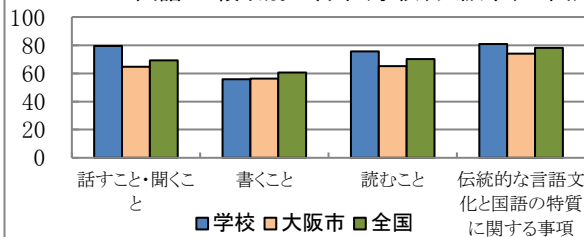


## 【 国語 】

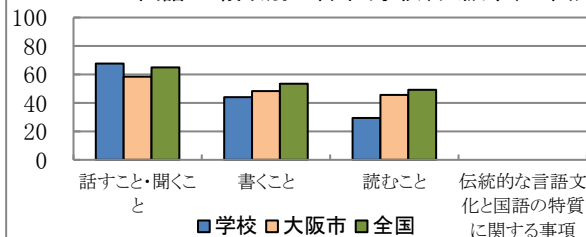
A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	79.4	64.6	69.2
	書くこと	2	55.9	56.2	60.6
	読むこと	3	75.5	65.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	80.7	74.0	78.0

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	67.6	58.4	64.9
	書くこと	5	44.1	48.3	53.4
	読むこと	3	29.4	45.5	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—

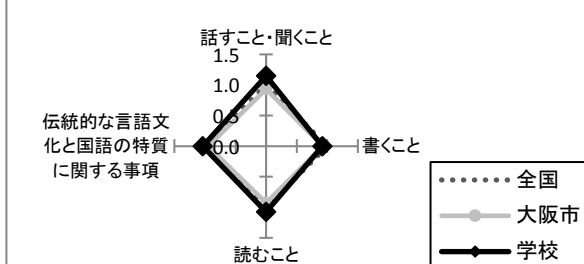
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



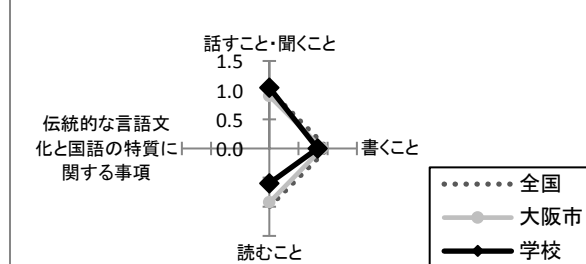
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



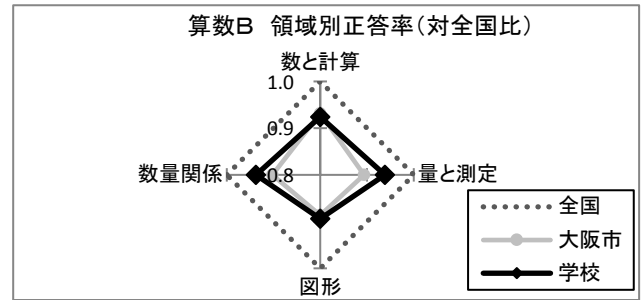
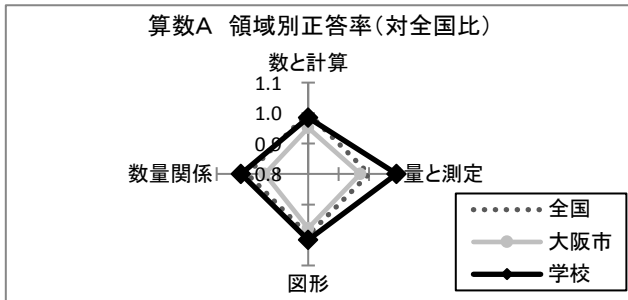
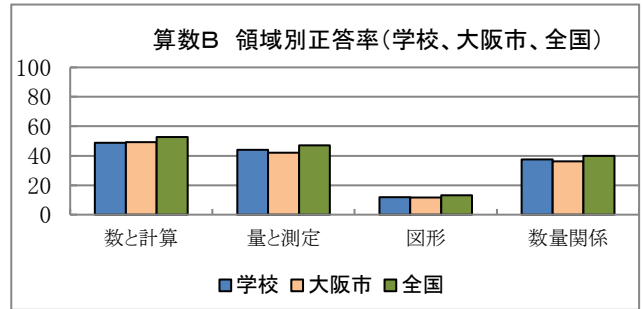
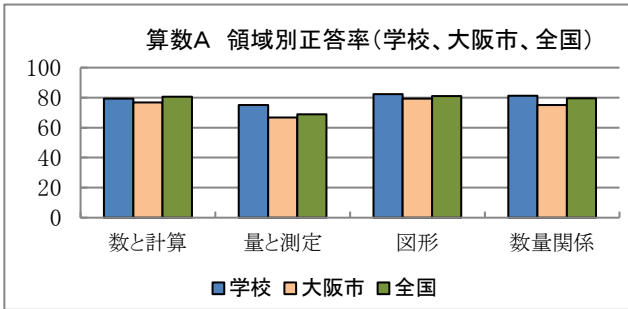
国語B 領域別正答率(対全国比)



# 【 算 数 】

A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	79.4	76.7	80.6
	量と測定	2	75.0	66.8	68.8
	図形	2	82.4	79.3	81.1
	数量関係	5	81.2	75.0	79.6

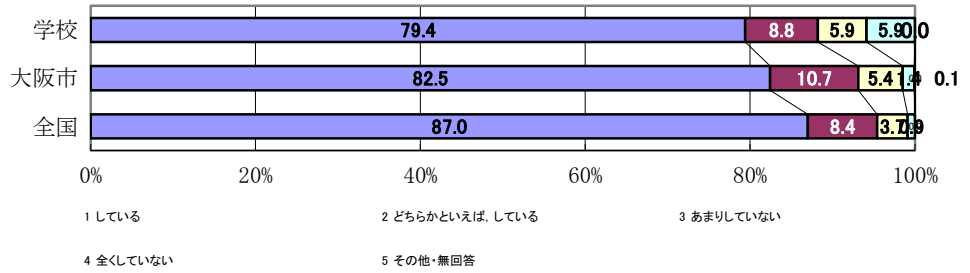
B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	5	48.8	49.2	52.8
	量と測定	2	44.1	42.0	47.0
	図形	1	11.8	11.7	13.2
	数量関係	8	37.5	36.1	40.0



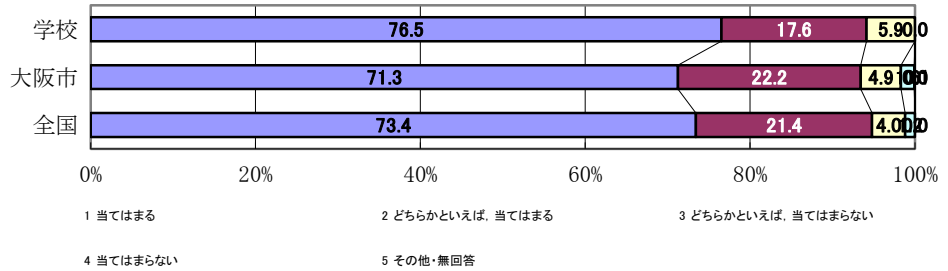
# 児童質問紙より

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 10

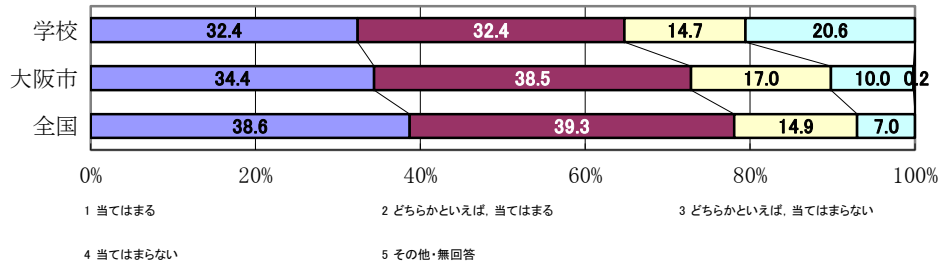
質問番号
質問事項
1
朝食を毎日食べていますか



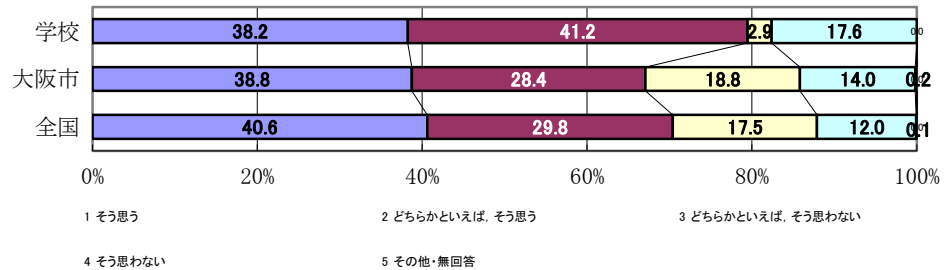
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



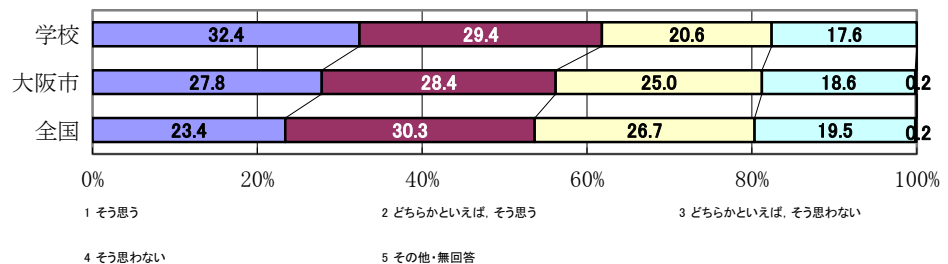
6
自分には、よいところがあると思いますか



47
外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか



67
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



# 学校質問紙より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

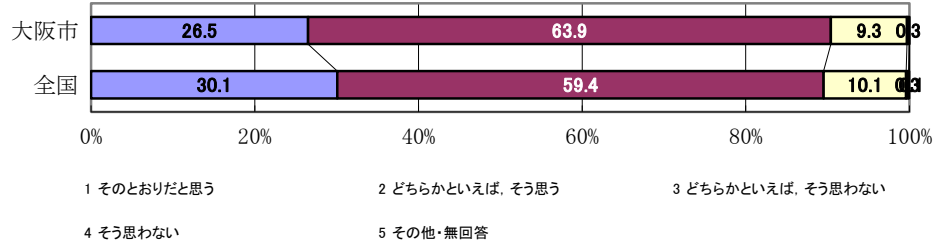
質問番号

質問事項

14

調査対象学年の児童は、  
礼儀正しいと思いますか

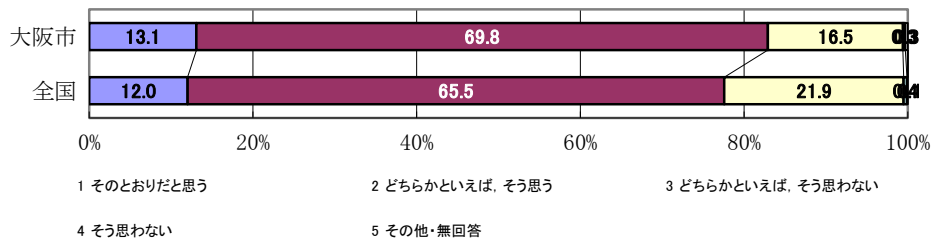
## 学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



15

調査対象学年の児童は、  
学級やグループでの話し  
合いなどの活動で、自分の考  
えを相手にしっかりと伝える  
ことができていると思いますか

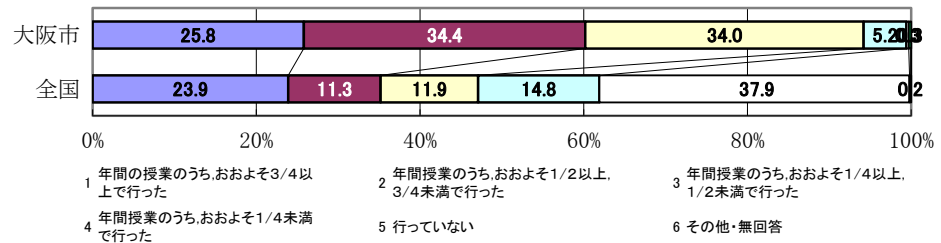
## 学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



60

調査対象学年の児童に対  
して、算数の授業におい  
て、前年度に、習熟の遅い  
グループに対して少人数に  
よる指導を行い、習得でき  
るようにしましたか

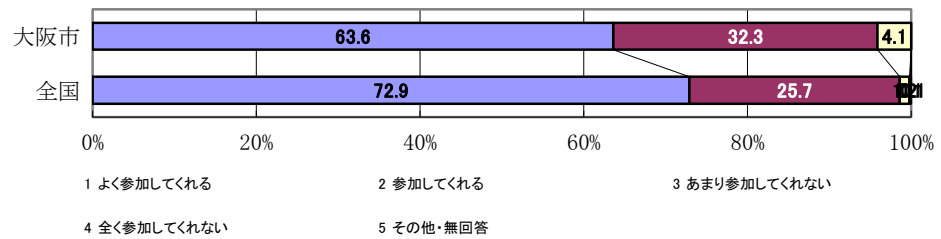
## 学校「年間授業のうち、おおよそ1/2以上、3/4未満で行った」を選択



87

PTAや地域の人が学校の  
諸活動(学校の美化、登下  
校の見守り、学校行事の支  
援など)にボランティアとし  
て参加してくれますか

## 学校「よく参加してくれる」を選択



109

学校全体の学力傾向や課題  
について、全教職員の間で共  
有していますか

## 学校「どちらかといえば、している」を選択

